

移乗介助技術 【アドバンス編】

「なぜいろいろな移乗介助方法を学ぶ必要があるのか？」

トランスファー技術 応用編

- I 二人介助の方法
- II だっこ法
- III かつぎ法

介護老人保健施設フェアウインドきの
リハビリテーション科
作業療法士 小松 顕

「移乗介助のスキルアップには、一体どんな効果があるのでしょうか？」

○なぜいろんな移乗介助方法を学ぶのか？

- 1 利用者の安全と安心を守る
- 2 利用者が快適に生活できる
- 3 利用者のできない動き見極めてフォローできる
- 4 介助者の身体を守る

○よりよい介助を学ぶとどうなるか？

- 1 適切な介助が最大のリハビリ
- 2 介助者と利用者の関係性が向上する
- 3 応用力が見につく

介助はする側とされる側の2者の関係で成立します！！

だから2者の体型の違いで方法は様々。

介助方法を統一するよりも、介助の目的達成が大切です！！

○復習

利用者を握ったり掴んだりしてはいけません。

包み込むようにタッチしてください。

ものを運ぶのではありません！ 人が移動するのです。

I. 全介助（2人介助）の方法

①利用者の手を組み、両脇から腕を抱える



この時、利用者さんの腕を強く握ってはいけません！！
ソフトに前腕を下から上へ包み込むようにタッチします。

②下の介助者は膝裏に手を当てます



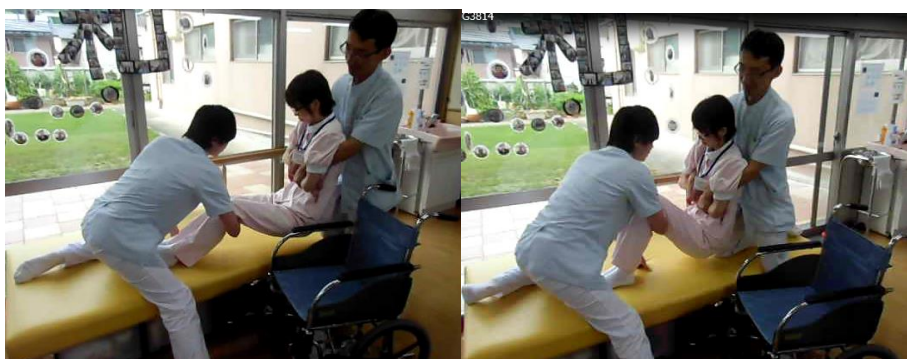
基本姿勢です

③後方に引き込むイメージでリフトします



下の人は上の人のタイミングに合わせます。

④おろすときは介助者がベッドに膝をつくとも負担が少なくなります



Ⅱ. だっこ法

おすすめの移乗介助方法！

見た目以上に安全です！！ 介助者の負担が一番小さい重介助テクニックです！！

①横に座ります



②自分の太ももに利用者の足をのせます



③片手は利用者の胸を支えます



④片手は骨盤を支えます

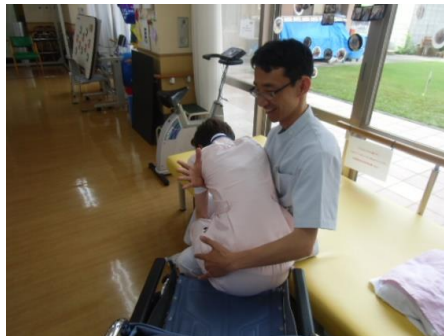


お尻をのぞくような姿勢になるとやりやすいですよ！

⑤利用者を自分の身体の方へ引き寄せるように、太ももに座ってもらう



⑥ベッド上を細かく移動し、車椅子へ誘導します



股関節の屈曲制限、体幹前屈制限がある場合はやらないでください！！

Ⅲ. かつぎ法

トイレ介助で役立つ方法です。少し足の支持ができる人

①利用者の脇に頭を通します

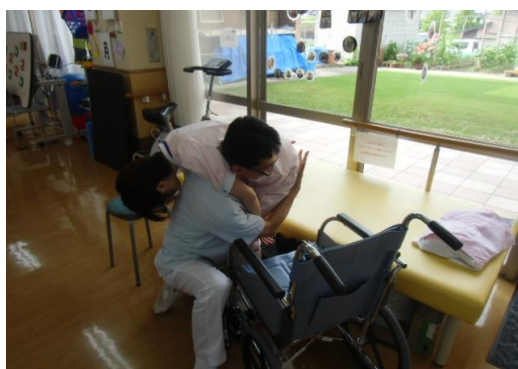


介助者は片膝をつけば固定度がアップします。

②利用者の胸を肩で支え、前屈を誘導します



③利用者の坐骨にコンタクトし、介助者は身体を伸ばします



④軽く体を回旋させて車椅子へ誘導します



※下図のようにズボン介助がしやすくなります



◆椅子を使う方法（かつぎ法別法）

やり方はかつぎ法と一緒に。ですが、椅子を使うとより簡単です!!

①立った姿勢で頭を通します



②立った姿勢から椅子に座ると、簡単にお尻が浮きます



おわりに

介助は技術です。テクニックが向上すれば、それだけ利用者さんによるこんでもらえます。介助する側もされる側も、安全で快適で楽な介助が、一番の自立支援です。

ただし、テクニックありきの介助ではありません。リハビリマインド、ケアマインドが大切です。利用者自身が自分で動きたくなるような介助ができればいいわけです。少しでも足で支える力を発揮してもらったり、身体を前に倒してもらったり、手を前に伸ばし肘掛を掴んでもらうなど、利用者の力に目をむけて、日々ひとつひとつの動作を大切にすれば、自立度は維持向上します。

「観る目」が高くなれば、必ず利用者さんから喜んでいただけます！！

お疲れ様でした！！